

実践報告

札幌市立前田中央小学校

(1) 研究内容

研究課題：「学校にアイヌ民族の方を招いて行う体験的学習に関する研究」

(2) 実践の内容

【実践①】「アイヌ民族の方々の生活と文化」について

○ ねらい

- ・ アイヌ文化に直接触れる体験的な活動を通して、アイヌ民族の生活や文化に対する関心を高める。
- ・ アイヌ民族の衣食住や文化、遊びについて自分なりに調べたいことを見つける。

○ 学習内容

- ・ ムックリやトンコリの演奏や歌の鑑賞と踊りの体験
- ・ アイヌ民族の伝統的な衣装の着用体験
- ・ アイヌ民族の方との小グループによる質問コーナー
- ・ アイヌの遊び道具を用いた体験活動

(3) 研究のまとめ

① 成果

- ・ 札幌ウポポ保存会の皆さんをお招きしての体験的な活動では、たくさんのムックリを用意していただいた。一人一人がムックリを手にとって、演奏にも挑戦し、音を鳴らそうと熱心に取り組んでいた。音を鳴らすことができたのは数名の子どもだけだったが、自分でもやってみることで、一層興味深く接することができた。
- ・ 同様に、アイヌ民族の子どもの遊びも道具を持ち込んでいただき、実際に遊ぶ体験ができた。子どもたちは楽しみながら、アイヌ民族の遊びに含まれた意味を考えたり、感じたりすることができた。
- ・ また、小グループをつくり、それぞれの講師の方と直接交流することによって、自分が感じた疑問を素直に表現することができた。また、ウポポ保存会の方々に丁寧に答えていただいたため、疑問を解決することができたと同時に、さらに新たな疑問をもつことができた。その一つ一つが、その後の追究活動の意欲につながっていた。
- ・ 授業参観の公開授業として実施することで、多くの保護者の方にもアイヌ文化を知ってもらうことができた。

② 課題

- 札幌ウポポ保存会の皆さんと直接的な対話ができるよう小グループ交流を設定したが、一度の交流では聞きたいこと、やりたいことが満足できるまでの時間をとることが難しい。数回にわたって来ていただくことができると、課題づくりだけでなく、調べていく中で生まれた疑問を解決するなどの効果も期待できる。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- アイヌ民族の方と直接触れ合うことで、普段、自分たちが接している考え方とは違う視点に触れることができたことは、大変有意義であった。アイヌの「共生」の自然観、ウレシパ（育て合う）という言葉とその根底に流れる考え方に触れることは、自分とは違う立場の人を理解していくことにつながる点で有効である。また、「人権」を考える上では、直接その人と接し、話を聞いたり自分の考えを伝えたりすることが、第一歩となる。